

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	小児の健康障害への看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	203.204
担当教員	藤澤真由美	実務経験と その関連資格	看護師・・・ 総合病院病棟勤務、小児救急外来で勤務。 看護教員・・・ 5年一貫看護学校教員、看護短期大学非常勤			
《授業科目における学習内容》						
科目目標: ①成長発達過程にある子どもと家族の看護について、入院や検査・治療、健康段階や障がい、在宅など、さまざまな状況から理解する。 ②子どもと家族について、保健・医療・福祉・教育の面から多角的に考えていき子どもの権利条約と重ねて理解する。 ③子どもの特徴的な症状、疾病の病態生理を含め、検査・治療の看護を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講試験(80%) 課題レポート(20%) 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護、中村友彦編、メディカ出版 【参考書】 ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美編、メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②看護技術、中野綾美編、メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
1)小児特有の疾患の理解に向け、病態治療論、病態治療Ⅰ～Ⅴを復習し講義に臨む。 2)テキストや資料を基に知識を集約し、理解できるように臨む。						
《履修に当たっての留意点》						
1)小児看護学概論や小児の健康増進への看護の内容もふまえ、健康障害を持つ子どもと家族の看護について学習する。 2)小児に特徴的な疾患の患者の看護を事例をふまえ学習するため、理解のために臨床薬理、臨床検査、臨床治療論も振り返る。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1、感覚器疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる 2、外来時の子どもと家族への看護を理解できる		教科書p.10～13	既習学習である病態治療論を復習し、小児特有の疾患を理解する	
	各コマにおける授業予定	感覚器疾患、小児特有の病態生理、治療 眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患 外来時の子どもと家族への看護 症状:発疹、中耳炎など				
第2回	授業を通じての到達目標	1. 消化器疾患をもつ子どもの病態・症状・治療・看護が理解できる		教科書p.214～255、p.294～302	既習学習である病態治療Ⅱ・Ⅴを復習し、小児特有の疾患を理解する	
	各コマにおける授業予定	消化器疾患・血液造血器疾患について小児特有の病態生理、治療 ・ウイルス性腸炎、胆道閉鎖症、ヘルニア ・腸閉塞、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプリング病、腸重積 ・症状:嘔吐、下痢、腹痛				
第3回	授業を通じての到達目標	1. 神経系疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる 2. 外科系疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる		教科書p.324～346、p.358～371、p.378～393	既習学習である病態治療Ⅲを復習し、小児特有の疾患を理解する	
	各コマにおける授業予定	神経・筋・精神疾患・外科系疾患について小児特有の病態生理、治療 ・熱性けいれん/てんかん、もやもや病、水頭症、二分脊椎 ・上腕骨顆上骨折、先天性股関節脱臼				
第4回	授業を通じての到達目標	運動器系疾患・痛みや症状のある疾患の病態生理、治療をふまえた看護の実際を事例を通して理解できる		教科書p.372～377 資料	グループワーク 小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく	
	各コマにおける授業予定	痛みや症状のある子どもと家族への看護 ・上腕骨顆上骨折 ・症状:けいれん、意識障害				
第5回	授業を通じての到達目標	1. 腫瘍性疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる 2. 血液・造血器疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解できる		教科書p.308～316、p.404～466	既習学習である病態治療Ⅲを復習し、小児特有の疾患を理解する	
	各コマにおける授業予定	腫瘍性疾患、血液造血器疾患について小児特有の病態生理、治療 ・脳腫瘍、神経芽腫 ・リンパ球性白血病、血友病				
第6回	授業を通じての到達目標	終末期の健康障害の病態生理、治療をふまえた看護の実際を事例を通して理解できる		教科書p.303～307、p.317～323 DVD視聴	第6回目の講義内容をふまえ、小児看護学概論の成長発達や健康段階における看護の特徴を復習しておく	
	各コマにおける授業予定	終末を迎えている子どもと家族への看護 ・リンパ球性白血病 ・脳腫瘍、神経芽腫				
第7回	授業を通じての到達目標	終講試験				
	各コマにおける授業予定	まとめと終講試験				